

評価対象年度 平成21年度

政策評価シート

政策 7

「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	7	将来の宮城を担う子どもの教育環境づくり	政策担当部局	教育庁, 経済工商観光部
				評価担当部局	教育庁

政策の状況

政策で取り組む内容

宮城の確かな未来を構築していくためには、将来を担う子どもの能力や創造性を最大限に引き出す教育環境の整備が必要である。児童生徒が自らの進路実現に向けて、希望を達成できるような「確かな学力」の定着が求められる中で、我が県の児童生徒の学力は、他県と比較して低迷しているという調査結果もあることから、学力を向上させることが急務となっている。このため、学力の向上に重点を置き、教員の一層の指導力向上や、学校と家庭との連携などにより、確かな学力の定着に向けた実効ある方策を進めるとともに、社会の変化に対応した教育を推進する。また、地域社会との連携のもとで、公共心、健全な勤労観など、将来にわたり社会の中で生きていく力をはぐくみ、児童生徒の道徳心などの豊かな心とたくましく健やかな体の育成を図る。

政策を構成する施策の状況

施策番号	施策の名称	事業費 (決算(見込)額, 施策の事業費合計)	目標指標等の状況		施策評価	
			現況値 (測定年度)	達成度		
15	着実な学力向上と希望する進路の実現	134,089千円	児童生徒の家庭等での学習時間(小学5年生:30分以上の児童の割合)	- (平成21年度)	N	やや遅れている
			児童生徒の家庭等での学習時間(中学2年生:1時間以上の児童の割合)	- (平成21年度)	N	
			児童生徒の家庭等での学習時間(高校1年生:2時間以上の生徒の割合)	14.5% (平成21年度)	B	
			「授業が分かる」と答える児童生徒の割合(小学5年生)	- (平成21年度)	N	
			「授業が分かる」と答える児童生徒の割合(中学2年生)	- (平成21年度)	N	
			「授業が分かる」と答える児童生徒の割合(高校1年生)	45.1% (平成21年度)	A	
			学習状況調査での正答率60%以上の問題の割合(小学5年生)	- (平成21年度)	N	
			学習状況調査での正答率60%以上の問題の割合(中学2年生)	- (平成21年度)	N	
			大学等への現役進学達成率の全国平均値とのかい離	-1.0P (平成20年度)	B	
	新規高卒者の就職決定率とのかい離	- (平成21年度)	N			
16	豊かな心と健やかな体の育成	243,754千円	不登校児童生徒の在籍者比率(小学校)	0.34% (平成20年度)	C	やや遅れている
			不登校児童生徒の在籍者比率(中学校)	3.17% (平成20年度)	C	
			不登校児童生徒の在籍者比率(中学校1年)	2.20% (平成20年度)	C	
			児童生徒の体力・運動能力調査で過去7年間の最高値を超えた項目の割合	52.5% (平成21年度)	A	
17	児童生徒や地域のニーズに応じた特色ある教育環境づくり	2,777,986千円	外部評価を実施する学校(小・中・高)の割合(小学校)	77.1% (平成20年度)	A	概ね順調
			外部評価を実施する学校(小・中・高)の割合(中学校)	74.7% (平成20年度)	A	
			外部評価を実施する学校(小・中・高)の割合(高校)	100.0% (平成21年度)	A	
			特別支援学校の児童生徒が居住地の小・中学校の児童生徒と交流及び共同学習した割合	27.2% (平成20年度)	A	

目標指標等の達成度 A:「目標値を達成している」
 B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している、又は現状維持している」
 C:「目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」
 N:「現況値が把握できず、判定できない」

政策評価(総括)

政策の成果(進捗状況)	評価	評価の理由・各施策の成果の状況
<p>・各施策の成果等から見て、政策の進捗状況はどうなっているか。</p>	<p>やや遅れている</p>	<p>・将来の宮城を担う子どもの教育環境づくりに向けて、3つの施策で取り組んだ。</p> <p>・施策15では、各事業とも概ね効率的に実施され、一定程度の成果はあったものの、本施策に対する県民の期待が大きいことや全国学力・学習状況調査において、中学生については一部を除き全国平均を上回ったが、小学生の平均正答率がすべての教科で全国平均を下回っていることや大学等への現役進学達成率の全国平均との乖離が目標を下回っていることなどから、本施策の進捗状況はやや遅れている。</p> <p>・施策16では、各事業とも概ね効率的に実施され、一定程度の成果はあったものの、本施策に対する県民の期待が大きいことや目標指標等の状況において、小・中学生の不登校在籍者比率は目標値に達しておらず、全国と比較しても高いことなどから、本施策の進捗状況はやや遅れている。</p> <p>・施策17では、県民意識調査の満足度が4割程度に留まっていること、「わからない」と回答した割合が3割に達していること、また、宮城県教育振興基本計画の策定等を踏まえ、今後事業の進捗が本格化するものもあるという状況ではあるが、各事業いずれも概ね効率的に実施され、所期の成果を挙げていることや、目標指標等については、外部評価を実施する小学校、中学校の割合をはじめ目標値を達成していることなどから、本施策は概ね順調に進捗している。</p> <p>・以上政策全体としては、施策15、16の進捗状況がやや遅れていることなどから、本政策の進捗状況はやや遅れていると考えられる。</p>

政策を推進する上での課題等と対応方針

施策の必要性・有効性・効率性の観点からの課題等と次年度(平成23年度)の対応方針

・施策15の「着実な学力向上と希望する進路の実現」については、小中学校段階での主体的な学習習慣形成と確かな学力の定着を図り、高校での学習にスムーズに繋げていくことが必要であることから、小・中・高各段階での取組をより一層強化する。また、学力の向上とともに、希望する進路達成のために、小・中・高の発達段階に応じた志教育の推進を図っていく。

・施策16の「豊かな心と健やかな体の育成」については、不登校や問題行動等の防止策として、家庭・地域社会・教育委員会、専門家や関連機関との連携による問題の早期発見・早期対応、きめ細かな教育相談体制の確立を図るとともに、体験活動や心の教育などをさらに充実させる必要がある。

・施策17の「児童生徒や地域のニーズに応じた特色ある教育環境づくり」については、宮城県教育振興基本計画等を踏まえ、時代や地域の要請に応える魅力ある学校づくりを主体的・継続的に進めていくための支援事業を展開するほか、特別支援教育に対する理解の促進と関係機関との連携・協力体制の構築及び校内支援体制の整備を図り、障害によって生じる教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を実施していく。